百 柱 堂 全 集

其母也嬰兒誰哺乎使富民水為貧民不可得是豈為政之 也 儉者富今後效富人以布施於貧家是奪力儉而與多墮 體哉富民何罪將以其富罪之歟幹非日侈而墮者貧力 能衛腿非所聞也富民者眾人之母破之是欲哺嬰兒而 得矣夫率富民以衞隄善為政者不能廢也破富民而未必 邑中隄工至今而民之財舜矣力竭矣富者求爲貧民不 與都中同邑諸子書壬寅 柱堂全集卷三十七 而欲民 Ż 疾作而節用不可得也夫 放富施貧猶為非 監 利王柏心子壽著 M

富民為眾人之母而仁人又為富民之母也當無事之時省 哉不取之富民而誰取雖然仁人處此則必有優卹之心矣 興作以寬富民有使凌者為全護之遇有水早隄防先括其 方實州縣以必行為州縣者亦以必行乃能免實將安取費 作無奏請之勞無科斂富民之苦今則無之一切隄 有勸勵之意矣故取一也而彼則破富此則保富彼則竭其 大府大府不敢輕請於司農卽請亦不可必得而爲大府者 破富 此則留其富彼為怨而此為德是仁政與虐政之分也是 田水利學校洞廟道塗亭館營造之事州縣不敢輕請 而無益於貧乎按歷代皆有州縣公使錢故凡遇與 防城 於

相当全身一卷三十七

質力最高者次括其貴力稍裕者其當出貴者勸誘之獎 | 踩蹦之是公家取一而奸胥取一里豪又取一也富民不出 財 百性堂全集一大岩丰十七 吾鄉梅黃等姓是已父老戒其子弟毋得力作聚財以招弱 無已罄其家之所有而後免馬十室九破蓋圖邑無富民 敢少逡巡也符帖未下而貲已出貲甫出而符帖又下輾轉 疾富民如仇而望富民之踴躍從公豈可得哉然而富民不 貲有皋出貲仍不免皋出貲少有皋出貲多仍不免舉官 之厚禮以待之和顏以接之閒威輪代以休息之毋令奸胥 及里豪侵牟其閒如此而事有不濟者乎富民有不望風 恐後者乎今也不然抑勒之呵責之拘係之縱奸胥里豪

答唐子方布政書戊 免誠莫可如何者開執事拘壞在抱憂滋殊深吸够億萬 承 澤 深 命禹稷望爱重此身乃能宏濟時艱耳故事各支都有被 泔 則 有策以紓 何 此 **桡者特以目视其弊私深慎悒睹君等致身** 者大府秩尊位峻屬吏嚴憚之民別困苦之 示遠近洚洞之苦氣數偏诊會逢其適唐處聖世循不能 之漁傳之四方非細故也 重者非大府親行按 次勘災似宜止大府勿行而執事持節目請親往 鄉里之困 申 否 視印連帥代往體察若以愚見論 柏心素不 預開里 中 事亦 廊廟亦嘗 未敢 非 枷 待 闖

達又地方凋做一切供億殊多掣用雖大府寬仁曲加盟恤 眾議自守令以下無不踴躍威奮頌效馳驅者又執事亮節 而屬史之心於有與然不敢安者惟執事於救荒本專政前 或檄道府代行即使清介無擾恐於他方情形未甚練習機 播在人口所至必能減關從約厨傳專以惠民拯困爲務 **展止凡振撫院防事宜或守經或通變或捐授方略或博采** 誠布公之懷能謀善斷之風則又屬寮所樂相稟承者蜺旌 在楚中尤以恤災得民心至各郡邑情形最為洞悉若其開 宜籍度未必盡合徒令疲苦州邑多一 事果有是行其大有造於中野贅鴻可 知也如未能親履 日往堂全集一个客三十七 次剛應仍於災區無

利之尺八口皆古穴口似可葉而不樂習以分洩則 今歲所貨如松茲之米穴口公安之涂家巷即古油 佐健事公正而說權變者可使往來督視能兼此三者上 爲招來他省必有聞風而至者此後散縣築限需員非數 有無可通移者此外則速請開捐輸局於本省地處適中 III 能其二者次也能其一者又次也厚之以耕水勘激之以遷 益也惟執事圖之承詢敬災事宜謹就營蠡所及相陳其略 補論斥信宜必罰則中材亦可賣其成效矣至若般郡江隄 人不可慈 執事擇獨方今最急者鎮款與用人而已通計正雜各項 滩 M 廉慎省可使佐縣事强幹而熟水利者可使

悉耳 憂惻圖惟苦心如揭時難若此而執事適與之值似天之重 以困執率者然古今陰陽錯盤之期多爲賢哲功名之會其 得月前廿七日書詳示遠近州郡霖潦餓饉及流離轉徙狀 上唐子方布攻鲁已酉五月 治江之策亦無善於此者不有所棄安有所救明者自當 陳 百姓堂全集一卷三十七 **隄從此高枕矣是為上策如其眾議不同則照舊補築終是** 定淤生再行相度此權道也度此日經費勢不得不出此且 下策三邑留口之說倘屬能行則 奏則此次但須給予厚販隄防聽民自便三數年後水 奏除賊額正也如未便 Ŋ

内水所經過頗有於開處民皆種於即稱稱也香夏秋三季 邦道府令長均已加策施行矣今歲瀕汇游地及去战決 善者方今倉無紅栗庫無朽貫賬貸等策可無庸歲計惟裝 以答明問募商赴蜀糴運一事前所陳者旣在必行則善之 略備矣願猶孜孜下詢若自忘其賢且智者敢不略陳蠡笞 也雖况粹奚辭焉執事講求於此也久矣所宣諸政令者亦 天不惜屢投屯厄以試其才然則今乃執事德施道援之日 不失為豐 商雜米無損於官而最便於民幸而江漲不盛民慶有秋 枪即不幸江防間有告敗亦安可一日無糧哉 此

人未足以應之天必不疊垂變異以練其智其人足以應

策更未聞有善於此者按漢高帝時聽民就食蜀漢成帝時 禁之意云夫移民移栗孟子所識然博攷史籍後世救荒之 種種於何居處哉如各邑有官荒隙地若江陵之窖金洲其 為資送無分遠近聽其所樂往而已必欲勒歸本籍則於 **播閩宗跋涉無田可耕無家可歸者什居其九此亦惟當** 公安石首監利在在有之若能盡刈可敵麥秋計不下數百 亦未可知刻下流民雖有無賴者借以爲解然其實老幼扶 萬石此物登場穀價可望少平天意或留此生路以厚苗 平主生色 W 第二上二 也潦退之後聽流人種穄於上小可度荒亦周官荒政 何

一書可熟但得雨止江漲不大十日內外便可全行收穫松滋

栗穀以實倉盾備其緩急未爲晚也若必拘牵成法則緩不 之困俟年穀順成然後徐招流散使還鄉里復其本業廣耀 選人於洛陽此移民也漢武帝時詔謂水潦移於江南方下 一个流民所在冗食之唐太宗時以關中成歉至親幸東都集 矣惟有聽民之自移聽商之移栗循可拯贴危之命釋倒懸 誠萬難之時然不處至難不足昭執事之至仁以此知天於 及人財竭則仁言仁心亦足以轉珍氣而釀天和執事所處 濟急矣抑又聞之澹大菑者恃財尤恃仁財膽則仁政可以 移粟也彼猶行之於金穀有餘之時今則財賦殫矣積儲整 巴蜀之栗致之江陵宣帝時令民轉穀入關者得毋用傳 此

一逆又權開府可以陳詞入告値非常之變異必能建非常: 生路僅在此 私智迫有萬倍於去年者奇災眞曠古所未有所幸執事 **尚屬完好止此而已今歲之水不過如去年而時窮勢絀** 造物殺之者亦造物數實爲之奈之何哉郡隄及江陵境內 告潰車灣尤甚其人煙輻輳者全行漂没此為最慘生之者 月之十五六兩日松滋高家套監利中軍灣兩處江隄先後 執事蓋所以練其智而試其才也雖況瘁奚餅馬 畫必能邀非常之 一周子方撫軍書已酉五月 而已執事勞心焦思寢食不安計大局規模已 恩澤昏墊殘黎所以忍死相望者

最宜急 平大抵經費其先務也庫藏旣無藏餘請款尤不易事急矣 **遗清强之員分勘災區非正人不委或卽遣本郡太守會** 非合百萬與七八十萬之數不能濟事至此次災政惟撫販 四五十萬 款計可得三四十萬金然後驢列茁狀灑涕陳奏請借帑金 不得不便宜從事請先括捐輸款節省岸費款司道各庫雜 該縣親勘郡縣其人可信者即不委員查核戸口有願安守 (甚不憂死於水而憂死於饑請不必俟州邑報災牒至先 而修築可緩議何者民餘人矣不待促決也限決 奏不允繼以再三怨奏必邀 俞允而後

略定於胸中矣柏心再有愚策竊願陳之如左以備采擇

典 之計來崴麥收仍予田主若有於生徐行升科 加人力疏浚務使深廣以達於湖相度院是可加高增作 俟秋後水搭會咨南北二省官吏通盤熟計隄可築則築之 資生行者可以資送如仍守成法 厚船撫即一 田盧者有原西入川南入廣北入豫東入三吳者均聽之惟 再生之望惟販可救饑惟販可防變故曰最爲急也此外 不可築則留其決 帑 生活色色 除 依 此 次而罷總 辦 W 34 111 1 法 似 口測量喪深能成河道固妙不能成河 為簡 1 之 要救災捍患 恩澤早速則災黎之留者可以 | 鞭轉 遲回則垂絕之命無 舉兩得當路數 1 如 继淪胥 則 則 便

其略 難必 月前 **公同心** 易所謂大人傾否之效 早禹五 唐子方無軍書 執 傾 便在今歲請先謀之櫃垣然後 或 事憂民擔災之意日夜思惟 聽 如 兩 左 年水人之無體有賣子者湯以莊山之金絲 俯 一意放膽放手任勞任 不敷用茲復有二 人機 賜釆 日請 記旣以急議陳奏奪畫速販奉告矣竊恐請 收買銅 軱 已酉六月 放 也不勝延頭以望 一策欲次第陳之不識能行與否 涓 鉛開局鼓鋒 露 怨 輕塵冀增嶽濱之高深謹 有可濟阽危者 則 窮 面 變通 也按管子日湯七 촟 人利 間舉 即不 行此則 幣 復 恡 來 迹 周 虚 柳

卽 寄售銅鉛可借取為銅本不足則購廢銅凡典鋪帶積銅器 是莫如廣鼓鑄以給之又被災之壤百穀不成百貨不通轉 府無金 瞬將有錢荒之病此亦不可不先慮者也聞漢口向有演點 |別古者鑄幣賬荒之男驗也方今天不生地不長倉無積 穆公日古者天災降戾於是乎景資幣權輕重以賬救民是 大抵不少若變捐銀之合為捐銅之合計捐銅多少量請 與優飲令出必多踊躍但須籌鼓鑄工 於被災郡縣分鑪鼓鑄就近支放能鑄至七八十萬貫 庄学全集工作各三十七 一無饘賣子者再以厯山之金鑄幣以救人之因國語單 鏹 而民困若此迫以不得不賑之勢則將安取辨 費或取之於商 或

今歲 饒畝 給穄 未 荒 母通行 之 知鼓鑄 市賈居 五 江皋湖演即 2用岩 極貴每石纔干餘文若潦退之後流民所在官爲給 升春夏秋三季皆 可十餘石春之每石得米三四斗不等種之不過每 十萬貫以佐冬間 種也穄之生喜新淤之地其生甚易不煩耕耨其熟 則可化少為多化無為有亦策之至便者 一行射 無請款則此可倚辦即 費岩 潰口廢田均可聽其種際秋晚便熟矣此 利此於斂散輕重之權尤 何如所費不至稍過便分鑄大小二品 留 可種養歲價極賤每石僅二三百文 口 旐 河 有請款以錢格放 築 可以操其高下 費 也 與來春 亦不 日 廣

帳 集見頒其時柏心滬在 客歲之春鈞函再賁道經敝里復辱存問兼以梅生同年遺 日 抒管見惟待好度 所費緡錢有限而可以活人無算視撫即之惠不啻過之斯 百柱堂全集一大卷三十七 又策之至便者也統在執事深權熟計更集眾思而謀之妄 不可為言意謂年丈入都必遂相 右敬凯起居則又問 甫臨捷書屢奏 然後肅修牋賀至秋杪始聞仍效疏傅還鄉方將奉書 李石梧制府書 天顏大悅兵氣始揚裝相 做郡講舍未能肅復且失迎候 詔 起督 師 兩粤拜表即行矣遙傳 天子光贊維新宣麻 视師 而准察 烕 倈

敬 告 盡 以懲惡今若受之 阻 毗 深緒 /創艾不 動擇其行 惟 忻 嬉 武襄之奪崑崙韓襄毅之搗大縣是 難 師 計 憚 **公按壘而貝州獻馘** 中 **種盤結**久習 尅日蕩平竊有愚言願進於麾下 也 於戰關往往倡為招 其 足絕其根林漢朱儁有言 一麽觀前史以此 石 占 號 勛 **更開遊意賊利則進戰鈍則乞降縱敵** 淈 而勢最 馬鼠 交崇 灰賊 伏計 强 者捕 **貽誤者多矣** 誠折衝之明效破膽之先聲 冶 **煽誘滋蔓尤易承平已**人 撫之策以管見揣之則 兵 加誅翦 納降無 以 來 也亦 但賊黨 則餘者不 勝 者兩粤之地 以 算久操 有擊其 勒善討之足 既眾 順兵 猛 算 Щ 非 将 難 M

菂 皆屬爽底餘智柏心特以夙昔受知之深敢效許歷一言違 者未之有也又兵聞拙速未 当は大学人工生物を大変を 所焚掠官軍所往來彼土貧瘠何以堪此若破竹拉朽 或断其樵米或購間其黨使自相居修或聲東擊西使不 神迹斯善之善者矣年丈爲今之范龍圖王新建凡此諸策 兵擊其左右申吾號令作吾將士明吾賞罰 所備或誘之離巢或困之絕地高壘臨其前間道襲其後奇 大抵先扼險要制彼奔軼開通津路聯我聲勢或燔其積聚 ĺij 凶黨自責者,所謂偏敗則眾攜兵法出奇難以一端盡 有 補於軍府馬幸賜采擇無任戰懼肅陳殷記 觀巧遲粤西用師將及兩載 如是而 賊不 泒 出 類則 賊 知 111

では、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmので

安 島之外為當時戰功第一 興 集屬爲轉 **頃友人書來言執事於郿人姓** 北鹺使 惟 作 姚石 戎幕資奇謀於借箸藉峻 於建甯張亨父 1 肵稱道耶 雄直 籌筆之餘以時珍衛 甫觀警書 之 之氣望 乃柏心則智術短淺實 命深幸繡斧非 矣執事 桂林朱伯韓及貴宗春木翁處時時 lli) 麎 慨 垂意之深也或 嗣 心竊壯之今歲持節外臺已 望 聞 進 庶幾 南 字頗辱拳 以折衝則又聞投袂即行矣 溟吿捷躬 摳 加諸 者亨父諸 衣 华復 珍鯨 識 偉 所云云也 承出尊著 君 鲵 威 俄 平 拜 得 丽 行 H 全 百 見

一特眾特險螳撐蜩沸勢極紛紜此時浪戰無益散地姑且置 惡輒敢淫名偕號顯犯天誅其殄滅可計日待但醜黨嘯應 答郭筠仙編修書辛亥八月 然竊願以愚言進助於萬一 是自做之道孫子亦謂致人而不致於人兵家機要似在於 腹心餘者自同破竹韓襄毅云賊已蔓延千里而所至與戰 **感且婉徐當取尊集次第紬釋稍盡管盡之窺測馬粵氛甚** 日は堂会集一一巻三十七 此執事智略輻輳必有百下百全之術書生遙度自知疎認 之惟當謹扼衝要全師蓄銳或用間道或數路並進直揚其 唇書喜識議益闊廓經綸世務有餘矣非止潛心大業已也 馬 -----

澤之士習鞘鈴曉孫吳者許其詣 青大條 蠻夷猾夏揠士為將竊謂當今中外臣察察舉人 聰獨粵西攻戰機宜從無建一 少也方今所宜急求者將帥而已古云三辰不明拔士 干城之 部言事者上及 出而 之 任畋 頒而 功效得失必相去萬萬也昔邑管之役龐籍力任 役中朝力薦韓雍 應其選者矣其與白面書生高秋崇班縣起而 臨御以來萬士之牘無日無之未聞舉 **卜之築壇而拜之此必有文武忠略膽** 宮府下 選將得人何敬之不推 **策進一謀者何舉朝知兵** 及四方利病皆得達於 枫 Ħ 陳以備他日緩急 、才如有草 何功 將オ 狄 宸 也

功而 戰略者未足居 寇則敗之平不平未可歲月期也彼督撫之守禦亦然於 愚以為 警而 似也 出 国 台灣人 觀 如 此 渽 練軍實按履山 專征仗鉞 故 邊 原督撫 然思以為 督 無異被郡 **一 撫**宜 H 地 此為最急也書言以及戰任將帥以防守任督 督 撫 者 此任矣今皆用文詞游擢至是一旦 選善用兵者居之 初設之意專主兵馬則宜專主攻 將帥非其材或以虛憍致衂或以異便養 縣獨不可任堵截 力 則宜專典兵事而以政令委之藩臬 別 川習 有屬督撫特委蛇馬 知險隘靜折姦萌有事 即可兼任 平何必假重 將 **擁兵於後與壁** É 、駒非 腹 一部内 地 無事 卽 撫 明於

延四 不意直搗其巢渠魁珍滅餘黨不煩兵下矣及賊勢旣 審城望著邊圍可以永靖夫馬將之道能談爲上勇敢 所謂多算勝少算不勝也當城初起利在卷甲疾馳出 必先悉地 勇偵探徑路檄滇黔 無遺若 財力分勢寡不知 出 撫是責不必更煩 則散 **個於虛聲連營縮胸或不** 地可 形與賊情勢全局了了然後可以決機致勝 棄而不 取敗之道也又按粵四全境 所備我 川楚粤東之 救惟當扼吾要害斷彼飽 朝 乃決策摧鋒蹦其窟 延命將 師迭分奇正數道 利鈍所至與戰是 如此可後事權 穴自 餫 張 ħŢ 簡 並

之言豈不驗哉竊謂此 司給 寬馬不宣 裂之仍復前明土司之制薄其實籍其兵使赴徵發期會不 之憂至於靡金錢耗士馬乃得枚定邊患我獨當之趙韓王 寇山川 皆設土官其時搖人屢亂則徵調土兵糗糧衣甲戰械皆土 失要束而 兵之難如此今既悉取而郡縣之矣一邑有警 下生生生失 而不勞然先後大征者三猶煩師十係萬人以上蓋險遠 Ż 素習長技與同轉運不印給縣官故功速費省 鄰省以官兵會爲不過什之一二 而已以土兵治 THE THE STATE OF 邊鄙疲內地斯不亦善乎率意狂論惟 次蕩平之後擇其險岨不毛者割而 1 瓤 厪 師行 宵

間道 中丞常公開府楚北才略明練風才卓然情其視事太遲 與夏宗山中書書王子七月 午之際籍畫兵食倉卒實不易辦賴有恩策願藉吾子以 岳保岳 **之地**扼吭 之中丞愚觀南楚將更似 也 7 救岳州然岳實楚北之門戸也山川險 非計之 靈食至於剷陽與岳州接境夫主兵者方不救長 莫善於腦 رويد الم 州 得者也為楚 則鄂不被兵矣品 拊背形勢在馬鄂渚散 4 :1 1 以 百擊千莫善於險以干擊萬莫善於 北計當 有縱 州不守鄂卽嬰城自固是 賊 傾國以守岳州吳起日 地難以言守守鄂不 東下之意今賊已 固水陸要衝 如守 坐 刑

伏用奇火攻之地也宜募漁艇交載枯荻灌以膏油裹以 豵 **模預縈走舸於後伏於港议之中賊艦若** 城陵磯三江口以下港渚甚多兩岸皆蘆葦直接嘉魚此設 勝彼若自湖登岸則因其半濟而擊之賊必奔敗至江路 其片帆不返我得地 他人恐不遠也岳之陸路宜據險爲營深溝高壘而於各 蓋兼此三者矣宜頓兵二三萬人於此即不可懸得萬人必 不可少非中丞自將以駐之不可中丞威望頗著又識事機 火北風則於 設伏以待之彼至 下游縱火兩岸用火箭射 則用 利 何懼於彼哉自岳以下皆古水戰之 羸 師誘其入伏四面合擊可獲奇 之弓弩亂發 來南風則於 可使 监

當 也 衞 我兵毋專恃火器宜雜用短刀長鉇及弓矢長以衞 史思明數 奥 地 亦选 楊 我 以火攻勝者多矣可仿而行也老熙當道貉子安 侍 長 以果毅之氣獎率三軍 承 季 坐有暇請備 軍職火之外更無 可 明 全集一卷三十七 個 死耳昔李臨准舍東京而守中潭遂能以少擊眾 以鏖戰 書 十萬之勁卒得地利故 **耶署失才之歎今古同之非士之恥** 王子入月 不北問賊 述鄙言以備采 他技故往往潰敗此不 **狂賊聞之必當膽** 陷陣多用刀斧 擇 也況此么麼 和 落即其冒 稠 本 小贼 跳 Ħ 也 渥 開 不 也哉 一纸不 短短 得 矯其 味 過 鄕 中

之用兵多先聲而後實我輒以實應之累受其愚五也斥堠 散地但有顧生罕能前死四也孫武謂以虞行不虞者勝賊 爲當事畫戰守之策有墨翟魯連之風遙深敬佩南楚事更 角無異使羊拒狼使矇刺虎也聞賊老營在郴桂號稱有眾 不速粤西以兵法論之鮮有不敗者不知已不知彼百戰百 不明間謀不精六也重以帥誾而懦兵怯而驕持此與强寇 **小能過十萬将欲以威聲劫我耳今敢送死遂犯長沙以愚** 十萬此詐也質核之精銳不過萬人餘皆驅脅烏合極多 するななと言うというないという 也無所不備則無所不寡兵勢惡分使得專力以持我 也不用奇謀不相救援不相統率三也自戰其地謂之 Ë

襲賊之老營或截其歸路凡拨長沙之兵及長郡見兵皆 料之賊已因糧於我因丁壯利器於我狙詐百變誘煽萬端 其西常郡其東岳郡皆分屯重兵各扼險監以形勢臨之使 又乘屢勝之勢此誠未可與爭鋒爲我軍計者亟募永順寳 寡則一舉可殲此萬全之策也明哲以爲然否林生天植深 **满高壘相與堅持勿為狼戰陰斷其魄道潜焚其火藥升船** 不得侵欺不過月餘賊進無所掠退無所據度必潰寬然後 靖鎮算等處溪丁峒戸膽智勇敢者爲一 承推戰執事留意人才雖片語不忘林生聞之有不感奮 面 乘機合學進制聲左則擊右聲右則擊左使城備 軍擇驍將統之 往

トオイニ ミイン 一人方 ニー・

百世影企长||《卷二十七 退之所謂行專合機宜風采可畏愛取先天下武夫關 即天下安危不貴能守貴能殄寇如令賊得綢筏出洞 在桂林可知長郡必保無虞惟不可縱其東下蓋長郡安危 嘿爾儻所言可采則以上所陳或轉以告之中丞聊備芻薨 許歷之敢進一言非劇孟之重於敵國負執事謬賞何敢妄 不可復制唐廣明之禍可以鑒也中丞旣能治戎又能 厕戎幕且方轉徙侍奉亦不欲跬步離也惟義深敵愾未能 **馳驅者乎當勒其先詣貴郡隨執事後協同訓練俟有**成 渴懷馬又兵家有言攻者不足守者有餘賊非善攻者觀

舟中泊於城北可募人焚之或繁而沈之援軍皆屯城河之 與楊季涵書壬子八月二十三日 其來若侍左右幸爲教之聞賦犯長沙者不滿萬人屯於城 **箸之勞鄉井賴之** 南逼城河為營掘塹自守師無後繼芻糧火藥均在所劫客 昨復牋計達貴郡應募結團訓練有方士氣百倍威聲遠播 惟珍重不宜 外今將困賊當築長圍或編木為棚斷賊走路截彼輝魄與 狂財聞之心膽俱寒決不敢西窺此當局籌筆之略執事借 而奪之氣者殆其人矣雖未望清光所嚮往爲借箸甚勞諸 國家賴之甚善甚善林生已與之害邀

퇬實無能且無大志不過假息游魂蹈瑕竄掠利則進否則 勝之師埽蕩各州邑土匪直推枯拉朽耳此諸公封侯之秋 在郴桂者毋令得與東合凡長郡見兵及四路援兵但深溝 百柱堂全集和卷三十七 **遁而已言者皆云賊老營在郴桂問聯屯數百里有眾數** 開一角伏兵於險合而驅之使陷伏中一鼓可殲此賊旣殄 不謬幸轉以聞之中丞張公賊之本謀尚未可測以愚度之 而三楚士民歌舞以慶安堵之日機會不可再失也倘愚策 則彼在栉柱者非鼠粤東卽奔江右而楚境靖矣然後以 **高壘勿與浪戰堅而持之俟其勢衰力困我乃奮勇進擊徐**

樵乐汲道速分衡永屯兵募示實晃靖土兵遮蔽賊之老營

之虛非賊之無敵蓋我之怯而寡謀也又有云城在 脅大抵亡賴烏合未經戰陣極多不過六七萬人而止我 萬豈 各城夫州邑本無兵又無救援故賊皆得志至各郡城 佝處酒 及壯勇數且倍之何畏於彼惟賊聚而我分得以專力乘 可知也又兵法攻減最為下策賊亦非善攻者但能陷 乘夏水東出旬日可至洞庭今已秋仲水潦將落即有舳 一萬人蠻婦參牛敢死之賊僅有萬人自擾楚南以來所 **筏窺洞庭之謀夫南楚竹木如邱山欲造舟楫咄嗟可** 有 淺況至今未觀一 排眾 數十萬 而 猫 檣 坐守一 一帆之東下乎其不能爲是 隅 者 乎其初犯 派 林桂 也 我 軍 田

百柱生全集 聚卷三十七 城之下孤軍獨進望屋而食此兵家大忌若我得良將堅璧 意也其攻桂林也踰月不能下其攻長沙也亦然久頓兵堅 義激厲將士親援枹鼓一日數戰大破城於城陵磯下斯其 垂存問有意乎其招延之也曾公提孤軍不滿二萬徒以忠 與胡蓮舫儀曹言兵事書甲寅閏七月十七日 機勿失耳 能與無大志略可概見我得勝算所望仗鉞者計利形勢應 魁帥焚其舟艦追奔逐北浮尸蔽江偽黨驚潰水陸東走自 日昨枉過湖上草堂適相左聞述及侍耶曾公駐師做里辱 而持之如周亚夫之困七國有不潰敗者乎故愚以為賊無

宗 戟前鄉馘 養死得所葬此則曾公之大有造於楚北也論者以為此 **応身殉國如此雖** 出湯火晏然有安堵再造之樂父子夫婦重相保聚生 軍興以來以少擊眾以弱摧强未有若是之奇捷者我軍 銳霆擊處魁不旬日卽可廓清江漢逐使楚北編氓脫鋒鎬 以招致共圖宏濟當此而不褰裳以赴則非夫也但自密意思 可比周室桓文唐家李郭矣凡大湖以北見曾公忠勤膽 市渝 兵略旣 覆憂順尤深且於曾公又添風昔周旋之舊茲復 賊計不返顧以助敵愾同仇之義況如柏心目 無老謀又無此事兼草莽餘生憂戚荒忽之 在孱懦猶當感慨騰躍請隸麾下揮戈荷 得

中神智瞀亂曾公亦安取此頑鈍之士而用之乎逡巡卻步 危運策足以救敗孫武所謂佯北勿追是也敵在死地乾没 和於屢戰輒克之威去來鈔略觸暑不息其氣已騙其備甚 之名將遇勝而持重者有其故矣敵有良將雖挫猶整其臨 度軍勢似有所見謹詳言之而藉吾子以問於曾公馬蓋古 未能前往方命之愆尚希代白至於數月以來揣量賊惰料 黨震潰若山谷之穨陷喪膽奪氣晝夜狂奔夢寐惕息皆以 可輕犯而進躡者也今兹狂賊皆非此比本起於烏合齊誘 百柱堂全集一个谷三十七 **疎其黨多懈忽與曾公遇連戰皆敗傷帥已梟眾無統率餘** 戰以圖倖勝軍志所謂窮宠勿追歸師勿遏是也此皆不

至有眾十餘萬有舟五六千艘及其敗也人不及萬舟不 必殺彼眾間之自然瓦解可不戰而自走餘均通 路進勦但下令薙髮投戈者即爲良民不加誅翦惟抗 陸地皆無賊與土寇惟南岸蒲圻以 **稻單是以徘徊未能徑進** 為官軍旗鼓且至其不能為設伏斷後之謀也明甚方賊初 愿偽黨趾伏乘問竊發出而椅我之後欲分師旁擊則兵 乘我兵之銳決計窮追 按兵未進者賴揣其意謂江中之戝雖敗而南北 數千人而止勢將竄入崇陽城中岡軍門塔公已 破竹之勢無過此時矣曾公所以 耳今北岸自 下各邑土寇尚屬充斥 三江口至漢陽訪却 兩岸猶 一由彼

777 ------

守鄂城者大半驅掠老弱雜以偽黨彼此猜疑必無固志長 夾舟翼進此時下游羣城見偽黨奔潰慴於威聲沿江屯壘 必散盡即敢旅距不過奔入鄂州城中縣死旦夕計賦之留 望風驚怖若鳥獸散何暇堅壁扼險更張螳臂我軍順流進 師與林生天直所率團丁亦當自漢水來會若賊猶踞鄂制 曾公卒舟師由江路灰追遇艦即焚遇賊即勦追至夏口賊 百柱堂全集人卷三十七 之勢裏糧治兵徑率升師鼓行東下塔帥將南來義勇陸行 府之師足任攻圍不煩曾公頓兵於此為曾公計第據上游 恢復當不啻反掌也計曾公抵鄂塔公必先後可達制府之 江又為我有不可得糧大軍一至非降卽潰武漢兩郡同時

曾公者平大時難得而易失兵先聲而後實若臨機不發稍 疾雷不及掩耳之勢然後與向帥 涉避疑使百戰之賊復得收召散亡扇動結聚養成凶勢兒 拯江麦赤子於水火之中巨寇旣平復以兵力次第埽蕩皖 元惡檻送闕下獻俘告 與我抗恐未易以成月平也昔周訪破社曾乘夜追之諸 山藪湖澤羣盜撫其善良而剪其凶猾如此 不留行坐清數干里之氛翳 明 日 日曾驍勇能戰宜及其丧乘之可滅鼓行 廟饗士策勳釋 會師合攻覆彼巢穴縛 中興異戴之功孰有高 朝廷宵旰之 則一舉滅賊 於

風行電邁直指

建康出其不意斯則將軍之兵從天而

勢 皆非結營之地且 百村堂全集—————— 秋 曾公威勢若此何疑何憚而佝煩長慮卻願乎哉螺山 州以平古人決策至明至速良以機會之來問不容髮耳今 首逆乃爲快耳方今戡難之望惟倚曾公故敢盡言以告 北各 執轡而諫太宗日功難成而易敗機難得而易失必乘 兩稅以甦民命以固人心此事雖由地方大吏為政然得 取之若 郡 語及之當事舉行必速則仁言之利更溥矣愈遽走 更 及 州 淹留使之計立備成不 邑 經城攻陷蹂躏尤甚者急宜奏豁 賊已遠遁追躡不可稍緩直指三山泉 可復 攻矣策馬而進 本年 新 夏

呈計 **獨糧** 筆 **壁炭為念** 稱 而 也若 曾 論 秋 滌 邀舞鑒麾下提兵不滿三萬 亚 楯 未 仰 是 船 夫 敢 上 一侍郎書 用 忠誠 臣 覓 於 破 使編 绡 賊 縣 子宣力之常古之名將往往有是未足為塵 一調謹附書並 經 迹 奮發崎 傳檄 過 氓丁壯大作其袍澤同 **敝邑** M 卯 遏亂萌宙合澄清期諸 枕戈義聲立振 咂 四月 辱垂 艱危 陳 肵 存 不少撓挫器 問傳語招延其時柏 所攻者克所當者 見屬邑 惟上 仇之氣寇樓 が一切一道 甲不請之武 釋 舫 主憂下 儀 破 奸 以 Ę, 功

臆議數則書生遙度不切事機伏念麾下山容海納 本分援似不可緩麾下明於算略計當有以處此節籍 相望 將陰有遁志若羣帥用命 侮之才遂使沔鄂二城三遭淪覆幸賴麾下之力戈船駱驛 北諸將廓清江漢必易於拉朽長江中流關繁輝道腹心 左次豫章伏計整軍經武成 分列上 臣極軌雖昔之方召桓文無以加馬開歲以來問脩治戰 有勇略之將由陸路取鄂或從憑州上游浮舟而下會 無所統率未間有決策深入者也麾下能少割兵力 一游我據長江巳扼其吭賊不 水陸速攻克復如反掌耳然營 師而出威聲百倍矣北省無禦 敢遠掠糧食又寡舟

引生发生生人 经三十七

Ē

怕 略無雙卓然時棟敬識之不忘以爲當世偉人莫麾下若 不意 北殘黎自 心曩與張仲遠左 胡聞芝撫軍書 勤 7 - 2 1 1 2 2 7 2 1 1 輒忘固 人隨少司馬曾公揮戈破賊追至海陽今歲復還授楚 雖久 惟冀珍攝以奏膚公以答海內之 沔鄂復 不得進兵力稍集則又轉勵而前移營佰之 此可慶再生又開麾下自去歲出私財募士僅 超侍無繇今春聞拜中丞之命竊幸長城有恃楚 陋 陷麾下收召遺散力保上游直捡 願助芻蕘磨 季高及唐方翁喬梓遊處皆道麾下 下鑒其思 间 望 松其妄爲幸甚籌筆 賊吭 间 得 北

會攻必能夷凶靖寇若摧枯拉朽也昔李西平之復 定勝天誠能動物恢復沔鄂此功終屬麾下且賊之酷虐焚 百柱堂全集一卷三十七 **檢舟相之利以順討逆何攻不克潯陽援師亦將續至合勢** 敢 孤 殺淫掠其惡稔矣天亡之期當在指顧兄我據長江上 廷用麾下適所以困麾下也然麾下忠勇奮發足貫神 高權重者反厚擁甲兵餉精養威於數百里外坐視麾下之 危況瘁曾不協力共謀速拯生民於湯火則又竊歎 不速雖 捷聞投袍楊旌志吞凶醜英毅壯果之氣宿將健兒有 流而西上寬尺寸者實麾下 克復尚遲旦晚 而轉弱為强勢足臨制至今賊 一軍捍蔽之力也而彼 西京也 明 朝

威激 處之勢亦豈有異哉忠義動人成懷威奮 間 與共商籌策開寫 麾 旅 奉手翰詳示近 下勳 卒奮其智勇戡定禍飢彼其先崎 將單弱糧食不繼又與大將李懷光不合介居二 援 刎 此自 頸 連 略 事兩 以報 重繭 如 此 壯 事並垂與借且以楚事孔棘不遺鄙陋欲 高義惜平柏心非其 飛書展其智計共濟製危退當爲田光侯 位望如 毋以抑鬱稍自摧,沮豈憂狂賊之 款誠抑損貴勢至有 長承命襄足非敢盤桓自度無運籌 此而折節若是使豪傑之士進當 胍 人也受性孱懦未習 北面請師之語嗟 孤 弱與 則所向無前 1111 魋 難 下今日 强 平哉 宼 耳 願

市柱堂全集 网络三十七 倍也恩逮肅復祗頌勛安軍中溽暑無筆之餘伏冀為 麾下延跂之誠身不能赴無以仰酬懷此區區顋獻愚悰謹 是伏處江皋時於軍事稍有臆說皆兵家常言無奇異者麾 能以身許麾下度蒙垂亮不之强也謹納辟書幸邀寬宥惟 勝之才仰聽盛意莫副渴懷且小人有母年屆八句此時未 削贖奉聞倘有碑萬一亦不啻藉手以報也柏心相識中 錄出奉呈惟賜財擇此後江上續有所見凡愚慮能及者必 為民以時自 兵無過季高者又膽決可仗盍手書招之乎其才勝柏心一 下智略絕人又在兵間久書生遙度豈能有助高深哉特感 重 圆

客秋聞麾下自將水軍擊楫轉關所向無前遂殄鯨鯢進 答李鶴 授 再 此 榲 逆折之継 鄂力保上游凶飲所以不敢邊聘者實賴艨艟百舸橫 食 時將士 可勝又曰其徐如林其疾如風此養氣蓄勢之術也柏 俟羅 斯黄直抵湓城威名之壯不减王龍驤今歲 人廉訪書て卯八月十七 廉 同 心我力有餘則議進攻不然且堅壁持之 又 訪軍到再謀會躺孫武日先為不可勝以待 開麾下亦有不能盡行其意者甚矣英豪 復 閊 诉 復 敝 流

1番横 心寬仁英毅之量收輯而拊循之漢者可復萃怯者可復 捌 鬱宜事機之多沮也柏心欽遲勛略獨風慕義爲日久矣 未得一謁 難 始雖垂翅終當鼓翼收效桑榆未為晚也方今賊勢雖 軍資戰械 **汕斯普** 南未過金口北未過黃陵磯我 碱 再 秋燕石 振 逸無足憚也我之餉餫仍屬通行荆 水 為領我 師 大第增補無憂乏關軍心緊屬惟倚麾下 細柳贍大樹耳乃蒙雲牋俯遠辱垂記 而邀卞氏之品題媳 精悍初無損折外據長江內 師新 挫 士無固志得麾下宏遠之度公 軍誠鼓其銳氣力與相持 川 知 也 斷湖港彼 郡 敬惟忠勤 籌濟駱驛供信 1111 注兼荷 方茂 不能旁 熾 誠 何 榆

黄陵 **児**僅 益 地 駐 偷 有 豐 大甚前路軍勢必孤難相應援又使賊得掠 **渡**寬越以窺吾後徐蓄兵勢為進 校 人思用命盪滌塵氛拯援塗炭非麾下之任 飹 港清 赴大營重加 生 驅脅益多愈 ĦĴ 磯 始 哲 所雅遊往 納 可泊 說 駐 得臨制之勢分戰艦數十艇 也建 非久屯之地召募稍 距金 來 舫儀部來行營必能 形難制矣 開説 口數十里之遙外可扼 理 軍威當可 和烟眾心必 几 此皆麾下早計而熟圖者 複 廣便望進發擇有險隘 壯麾 取恢復根本不然 前識 收其效又將力 游奕江 下随 長 及此渠於各營 而 地自廣糧 河令彼不 江 闸 彌維 内 誰 仼 巾 則蹙 哉 聯 費 新 無 可

性とうなると

多述克蔡店復漢日進倡漢陽垂拔之矣斯時也精誠貫於 與賊俱生直蹦凶巢揮戈蹀血銳莫能當 歎也當塵下親帥水陸二 谷胡潤芝撫軍書乙卯九月十五日 日月威略疾於風 說念麾下欲廣忠益樂聞謀策竊不自量別紙錄出願效管 **頭翰教干餘言時艱孔棘功敗垂成為之唏噓流涕扼捥** 皆幸出水火釋倒懸有日矣天不悔嗣難平者事偷竭 惟明哲財擇爲幸甚 與轉敗為功不難也柏心素乏籌略然近事所觸時有 霆凶徒震響已將逃遁江上殘黎歡呼忭 軍學楫渡江之日忠勇勃發誓 | 斬賊| 至六七千之

倍先拔鄂城傾其巢穴繼攻漢陽必不戰而 足爲名 題 韓然各散遂使凶勢再振然非戰之罪也鄉令庚癸無呼 震潰磨 敗之法也收效桑榆終當奮異克復之績旋與可 廉訪道通城而入所謂將軍之兵從天而下批 省將明罰思過布所失於境內校變通之計於將來者此 **士皆宿飽恢復兩城** 人之事者武鄉失利於箕谷李郭同潰於 全集一卷三十七 將累故聞於遺散各營多所澄汰徇合機宜夫減 下相與表裏聲之楊鎭又以舟師中 處分 **数便下矣麾下引咎自劾**真能行 師 會攻德安亦可相 相 走然後進兵 流而進聲勢 州兵家勝負 耒 亢褥虚 期矣羅 賊

粵賊近在金陵作何狀猶未犯維揚始蘇否城連陷數行省 解耳 並 鋒勢銳甚以愚料之無足憚者彼雖乘百勝之威擁百萬之 **安州迅速告平全據上游則勢加破竹數節之後必迎及而** 與左季高書 事機之大可乘者以管見料之滅賊不出今年惟冀沔鄂及 出長江相與整眾東下但拔皖城卽金陵已在掌握中是則 **蔽江偽眾聞之自然震怖各鳥驚獸散其時少司馬曾公師** 自主堂全集 医关三十七 北全清羅楊二公便率水陸二軍前指潯陽金鼓震天舳廬 下以新勝之師楊滌山谷川澤餘寇旬日可畢如此則楚 1,111

如山非獨栗安能持人且盗賊羣居未有終日之計其勢 網中矣俟 賊不得掠地以益糗糧起粤東之師浮巨舶由海道恢復 變必速 與浪戰截賊餒路形格勢禁賊不敢四出旁犯已不齊在 師計第分兵扼律沽必無 守北岸毋命賦得渡江彼決不敢孤注航海徑犯天津為 即會於金陵城 然其實所據不過一 此時瓜涉廣陵戍卒不能進討則不必議躺但當 彼有內對 懈疾攻其營或番休逃進或設伏誘之當得奇捷 下斷賊入海之路向帥惟用堅壁持之 雅食垂盘 城耳此外尺寸之地非其有也金帛 他 慮 **视其城守或虚分襲其城** 亚 赵閩浙之 師助守蘇州 令 为 淝 羅 淵

何彼瑕隙又須羣帥同心相機犄角如獵者之捕鹿期於必 深均宜二 獲乃能奏功耳至 以奇兵劫之昔楚漢哀曹雌雄之分所爭惟在鸧鲊此不 未必盡精銳也察被營稍孱弱者盡銳擊之一營拔餘營必 之守城及道士洑黄石港各險隘江岸皆緩急可特倘能 藥更捷又無炸裂之患能徵匠按古式製造否推而行之 F 11 24 AT 18 | WALLEY IN 小深慮者也又鄂城南北東三面似宜於郭外早掘外壕 城亦繼遺此乃運奇制勝之秋惟須堅忍耐久蓄吾勢 於城外分營者特欲張其連珠猿臂之勢耳營析為 三丈不等此亦設 向帥衛路所關尤重最宜力護毋令賊 防要務也酸車以機發石較

急要策與銅運船抵漢皋便難前進此可借用者一 於殺機竊意鬼神亦必從而佑之矣楚北財賦鼓鑄似爲妝 俸兵偷搭放甚便斂散在我何憚而不行昔馬殷用高郁之 積滯縣價購之其值必敗此可收買者又一 黔中寄售之 次積年榜獲銅動更復不少此可收買者一武漢各郡廢 古石碳將來便可殺火礙之瀾防患救世蓋 耳鼓鑄行可以救錢荒可以平錢價商買不得騰踊居奇官 僅鑄鐵錢而湖南以區區一隅富冠列國與南漢南唐 甚愛惜此可借用者又一但須籌工貲薪炭與召募館 往事之明效哉途次嘉魚聞村中人語云通城 兩得之寓仁心 漢皋

| 歸遇通城人被難遷徙者詢之則云彼間僅| 兩姓人以抗 民尤多負固招聚亡賴以壯聲勢相傳廉訪有請濟師之語 恩息走筆惟垂察不宜 以計縛其首惡送請懲辦如此可保百年無事審爾則 畔逆之心山谷非窮兵之地岷翁智略度亦必早見及此 威亦不黷武所謂不戰 酌定征收折色斗斛價值惟期官民兩便公私交濟旣不 **舣衅其餘善良悉宁法懼滿若大吏許稍稍平其賦役** 岷翁多騰文告谕令紳士縛獻首惡決不濫誅平民且 而屈人之兵善之善者也蓋愚民無 望城 必 糧

古之圍城有決水或壅水以灌之者有掘重壓樹長柵 北未渡江南未犯吳越不過孤守一城是猶在吾掌 取吳元濟王重樂李克用之滅黃巢諸道並會過其衝突 飽我機被主我客彼佚我疲彼勇我怯凡此皆難與爭鋒 無外援凡此諸計皆不能用又兵法十則圍之今敗之堪 之者有擊敗外拔而城卽繼潰者今賊在金陵地高於 者無慮十餘萬我軍之數未有以過於彼者且彼壯我驛 不能周圍將百有餘里樹柵之功未易施彼聚眾死守亦 道以漸逼之直搗其虛乃可傾彼窟穴今贼粉雕照 也制之之法當如渾瑊李晟之克朱泚李光顏李恕 ìΙ 滩

矣雖 蛇豕縱橫江干無衛宇二三故人得彼此尚告無恙卽云幸 滅此賊易於拉朽惟行營都統之任必得其才乃能指麾 岩嶺南之師由海道進逼建康城下向帥堅壁與城下賊 借箸甚善甚善退之從軍而禁州途平樊川進策而 軍應機 尾夾攻卽江北之師吳門之軍皆可分道進會四面環擊 相持賊已腹背受敵然後何其內間俟其饑疲東西齊舉首 百在堂全集 耳舍親梅杏田來得手翰慰問綢繆威入肺腑敬審戎 神速耳高識謂此言何如 仙編修書 有約自度酯薄綠怪難與諸賢同棲林壑以是為 老三十七 F 澤路 旃

澤腦 識 假省高貨素封之家未罹兵聚者即使之 恡 但令具例待之吾弟書中見亦略同夫北省去嵗淪於巨 耳今少可 下彼亦幸遇晉公贊皇明於機略故能納采如流奇勳立 供億 頰 奏記請授於少 略與麾下諸將之忠智曉果助廓清而奏膚功豈直 猶未足報德 乎 司 隅之禄乎哉延首獨風無任馳仰春間江漢覆沒 馬拯而出 馬曾公即晉公費皇之傳也 迁 而酬惠也況援師再至乎況所需僅 司馬遼蒙垂念唇齒 之 功過於齊桓之存亡國也遠矣 随連 一舫宜 卿 慨然 後宣播義聲 而又佐之 傾襲罄産持 許以分師來 以吾弟之 就

院境諸賊往來抽換番休迭戰饞輝不絕被主我客彼遜我 鉞 計克復必在旦晚惟慮偽黨越逸或與上游通城各邑土 鼓動之但請援師速進軍過境上資糧屍展必無關乏日來 兼顧問羅山廉訪新克義甯已進駐通城矣若以此勁旅乘 中丞剪公畜其智勇一 **嘯召保聚窺何衝突則荆岳皆難安堵方今北省兵力未能** 百柱堂全集一个卷三十七 净盡且不獨功在援鄂也九江死賊與湖口爲指臂悉其精 以 而戰日夜不息雖縊其吭未拊其背彼方外據長江 ,勒上以捍破岳陽下以盪滌江漢羣匪窟穴立可剷 面當我守禦甚固我師萃於鄱湖之內水陸並 鼓而漢陽漢口相繼肅清進圖鄂治 A TO A STANDARD AND A 一攻蹀 双

新勝之師水陸並下出其不意直指湓浦 之其遲遽巧拙相去不啻倍蓰也兵法相持旣久在於用奇 勞外頓兵堅城之下守者有餘攻者不足古之智 此今誠得羅廉訪一軍道通城而入假途鄂渚合楚 救趙直走大梁之計竊謂批亢構虚勢有必出於是者請 合而學之一戰可拔此與但 形勢旌旗被江轉鼓震天順流東喬以武臨之或約郡湖之 少司馬詳言之而力加 力搏戰牽擊其前度被將疲潜引江外之師夾擊其後 訪一軍名為援鄂而來實則乘機合取九江此即田忌 赞成則 拔九江若反掌然後整眾東 用都湖諸軍專問實力僅乃勝 賊必震潰或明示

鼓矢石間 史無 暇晷從事披覽且軍情懸隔被已虛實揣度 果斷夙與羅公齊名軍心共屬羣志大定代將以還連戰 九羅公之不幸楚民之不幸也所賴麾 客冬至今末得以牋記徹清聽者知麾下日治攻圍親當 傳聞動多茫昧欲以遙度之詞妄進謀畫則又不敢也鄂 珍衞不宣 垂拔矣而方伯羅公遼爾淪喪羊太傅云不如意事什常 珍寇自任而羅公部眾又得迪葊都轉代領之其為將沈 胡潤芝撫軍書丙長三月十八日 兵不留行矣軍中早秋炎暑未退惟紆籌草檄之餘以時 生生全集 多苦十七 下壯猷克奮毅然以

馳 無可該也 亚 **遁而已矣夫以麾下之謀夢忠壯與迪葊称轉之善與無** 集之士 · 倖乾没若我軍嚴整 右犄角贼之速亡可知 都轉遊舍可乘之機而去 江右此軍 黨漸散賊糧漸 張虛聲以疑我耳計其狡情 再振縱 與教練之卒其功 郎欲强留 別 募勁勇以益兵數 將士本出曾公部下方今有急 乏遊 **始難敢口然竊謂此間方略已就功緒** 來則必挫 也 魂抗拒 效 微聞 則楚北軍勢轉 可同 而統 少司馬曾公有檄調 大抵 奔亡在 再創艾彼但有出 日 潛门 馭將才 語也明矣寫計 即猶當死 引漢陽之賊 孤 呼令還援義 賊以其 H 力 於 首 都 循 得 潰

難且卻轉扱楚以來崎嶇百戰士卒亦望旦夕城拔冀得 北之與聚於兩城江石之與散在各郡彼聚而我併力以之 險堅壁自固而奏調與東之師皮領夾擊可使賊首尾奔命 決機盡銀奏積似易被散而我引軍從之所在與戰見功殊 乃與致人而不致於人之術相左乎愚見爲曾公謀姑且保 俟楚軍得利屈指币月鄂城可下然後都轉率新勝之師鼓 **賊轉復陸梁而江右俄擾之賊猝難翦薤在 羣賊何患不除若釋破竹之勢分師遠去竊慮鄂城垂斃之** 行還援豫章聲威百倍賊自震潰曾公以全力制其後江 日在堂全集——卷三十七 此 則坐虧

黨接濟糧食火藥人徒之路如此令 其勢雖蹙然未嘗合聞則彼於城之東北兩路猶能伸縮 楚為兩失之故郭城朝以下則都轉夕以往極遲不過一 以謝智公也誠得麾下致害曾公具道都轉留楚爲兩得 略未得制彼死命也可否分戰艦一 為期耳曾公深知兵要當能見聽也柏心又竊意鄂城之 均有書怨留都轉以蔵大功以成羅公遺志度都轉尚無 角汎及青山分結水陸營柵斯城四出越遊與與國等處 智自早等及特義之所在不能不往日來蓮舫孝鳳諸 賊 二百艘載戰 在作中 賊 訶 僞

勞在彼又莫救燎原之火明於兵略者必不出此也

都

涉者政治源流興衰大略而已兵事實非所習特率應妄陳 答明潤之撫軍書所長四月八日 身留楚與麾下戮力一心誓翦鲸鲵羅公雕沒猶生也昔後 爾不意麾下見許之深也迪葊都轉分師援江右而毅然以 漢伐蜀之役彭岑亡而吳漢卒克之晉王鎮州之役史建塘 承賜復獎譽有加讀之悚愧柏心賦性疏率學術淺薄肵粗 李嗣昭李存進亡而李存審卒克之成功有先後故也惟創 知無當哪買其愚慮而已惟財擇爲幸 其接濟將至突出襲勦或縱火焚之亦可困賊區區營蠡明 小攻而自破也如兵力難分者或但遣壯士伏城之東北探

師 金支絀籌畫方艱不無顧慮然柏心則謂此猶其次爲者其 即持舒賞招黃州團丁率以渡江駐於武昌縣城截斷 大冶之接齊賊糧者然後水軍戰舸順流下駛泊駐青 日攻其瑕彼亦不敢分兵助鄂也不然則漢陽之軍但分 力以與我角若漢陽諸軍能遏賊勿使渡江或投間 者則所節帥各專一軍畫題分界聲勢隔 分攻猶未為失今則大江下游賦往來出没不能斷 術也夫使我軍據長江而全有之賊阻南 與之相持而潛引步騎下取黃州埽清江岸令飾館可 虚形於漢陽以綴江北諸軍而抽引偽眾納諸鄂城悉 東着三十七 ľ 北不得相通 越此未得制 11. 抵 找 園 彼 國

陽有不下者乎從有 軍譬如左右手足無故自為拘攣此豈應敵之道乎麾下盍 角等處堅壁以挫之但裁彼糧食火藥嚴虧諸營防其衝突 舉此語城商制府反覆閱譽勸以分師助圍鄂城鄂拔而漢 我勞彼主我客可用智取難與力爭圍勢稍合或移營設伏 以濟事不貴拘牵以遺誤也大抵賊憑堅城我營郊野彼逸 首尾環應如率然之勢而我畫江分地不能引北軍以濟南 俟其窮極乃開圍一角縱之使走而預伏兵於險隘俟其人 以誘之或昏夜鼓譟以劫之或鈔其饋饆或略其樵採彼將 代前後夾擊當可盡殄此百勝萬全之策也今也兩城之賊 百柱堂全集一卷三十七 明旨責介分射然兵家機宜貴權道

漸困終是吾掌握之物也抑又聞之兵人則變生今江漢殘 所不能為者而麾下一人兼之沛然若有餘雖魏公問氣才 問皆手自削草復以其餘澄清吏道振舉憲度有百數十人 凡將校卒伍之進退獨糧緡錢之出納火藥軍械之儲積無 愚言妄進於麾下者望詳察馬聞麾下畫治攻戰夜嚴守禦 者乎此則合漢陽之師助圍鄂城機會不可復失者也以有 復浸灌楚北則我軍腹背受敵進退失據是豈可不爲寒心 **壤關兵不休者三載矣士日告疲餉日告匱萬一江白之賊** 周八面然非所以專思慮而 重體要也夫事有緩急有綱 一線理與夫接見紫屬披魔史廣又自章疏至符檄書

威嚴無任屏營惟賜垂答 筋固未為晚又督戰之際躬犯矢石將帥宜然但重閉垂 麾下以滅賊爲任則所急者治軍耳所尤急者方略調遣 託命所關誠鉅伏冀加意保愛以答 否姑委其權於藩翰且亦屬彼職掌也俟城平之後徐加 至金穀書記擇人以任之足矣若大吏治似在所緩黜陟 兩月以來水陸連戰皆大捷孤城殘學糧援悉斷飛走無路 **咀籠檻中物計成務卽在旦暮此皆麾下勝算先操將士** 柱堂全集 人卷三十七 **眷界以奏膚公干**冒

則事勢萬難適與之值耳然也勤勛伐固已邈馬寡傷矣智 激用命之效也惟戎車六月零雨三年獨令麾下肩兹兄妹 風馳仰欽忭莫名柏心自四月中旬即患傷寒侵尋四十餘 於南路以分賊勢而潛師銜枚於草準門左右彼處稍東 自如以我軍悉屯南路故不防北面此可乘之隙也凡臨 耶偽眾多寡此間無眞耗難以懸揣竊聞賊起草埠門出 復初也賊之窮因外形昭然然不降不走豈城內尚有積糧 日疾少差老母召歸命且靜構元氣虛弱非調護月餘不能 鳳凰山城趾跨其麓可梯而上約於五鼓時或日峭後偵 各門地勢迫來非戰地攻之不便鄙意謂可盛兵鼓噪見形

無備 敵之患且敗固乏糧我亦乏餉殆略相當所恃者賊衰而 矣以老成之見論之賦窮不待攻攻之徒損士卒但相持太 無當兵機惟麾下財察幸甚 **賊即犯吾境我力有餘折箠驅之譬以湯沃雪也妄議**喻 **筑耳此所以不得不急與賊競者也若鄂城先拔彼江右 外恐江右敗賊倏忽閘入令彼頓增氣勢而我又有腹背** 之際残聚傑傑拯之湯火之中此皆麾下忠貫日月 月前廿二日之捷喧傳露布喜動江天狂醜狺狺埽之朽枯 TI性學全集/2001年七 一胡潤芝撫軍書 面攀堞 面奪門但一處得手賊卽驚潰不暇拒我 我 受

角推牙望風潰北昔裴相平淮泰潞公入貝州不過號介指 霆動九天九地之兵運百下百全之策佐以迪莽方伯之 深勇沈厚幹軍門之聽武雄傑遂使鯨鯢梟獍磃魄喪精 大小數十百戰如是之勤且人者也問麾下復毅然以東 **撕坐收功效而已未若麾下暴露寒暑淹時踰歲擐甲 麥直與方召比隆吳何桓文之足道哉柏心孱懦文儒** 漢常武之篇仿柳雅幹碑之體爲麾下閘 任乘此威勢直搗建康四年進寇將 櫻提劍屬棗難以効前驅惟有跨其思慮振藥將詞幕 宸東從此錫鬯自銘景鐘懋賞崇封縣 舉而犁其巢穴以 溥

掌耳不必坐 | 宇前經賊毀近復結屋方擬移家老母漸衰未忍遠離制 但激請將水陸並攻卽不殲盡凶徒亦當速走復江漢如 楊公之招不能赴召章奏又非所素習已復歧卻聘矣執 知我希代達委曲賊在江漢者聞其黨無多至今皖中金 與張仲遠同年書 **示大別均高而已肅修牋敬馳賀鴻猷** 生さくヨラ 游諸逆未聞增兵來楚又寡舟船今我軍據長江上游 日升王得復書承紆策前籌盡勤兼著甚善甚善柏心 食戰艦旣多眾又倍之賦陰有通志矣此機大可乘 一待北軍 始議進 剃 恐師老財匱轉失機會北 故 斷 陵

翰教敬悉前鋒所指當者立推威稜徧江漢南北矣甚善甚 去冬漢陽克捷之功今歲皖江屏藩之提均未肅賀者營幕 答李鶴人布政書 **頻移未知定所且不欲以耨詞干聽也卽日使者** 畫方勞勉 旃目愛不宣 有再生之慶以制府威略敦事籌策此功決可指揮而就贊 旣不能諳敗情勢且非用騎之地俟澄清江漢然後會師東 不必設防但須埽除興國崇通等處土寇使根材全芟則人 中為水軍左步右騎三路並進楚境自無外寇下游可以 詞披寫情係來帶如親惟於柏心津津樂道不啻日 到門

節下引愚聞疏陋者與之定謀議濟時艱凡有心志叨此異 英 賢推賤且不肖者以為勝己自非愛才下土發於至誠摯於 夕入白老母則悽然有不樂者問歲內能歸否對以此難預 **戎重以** 數敦不感奮欲竭獨點況於柏心受知之深銜次入骨者乎 们渴者孰能如此柏心自望清光以來謂忠孝智勇冠當 畢賊名登之及事業奉 此郭隗侯嬴之遇也柏心何人敢辱斯誼又承大咨開示已 不入兼莊稱兩公亦有連械

勸駕即擬治裝偕使者並發是
 加 麾下蓋傾心外矣今也居動積威名之地復肯秆尊折 君父之命乎又荷賜金備營甘旨曲體代籌無微 **俞允矣薦順中語皆自忘其貴與** 世

三十五十五十五三

í: 1

;

1111

昏 對无未 涉行 陣軍謀實非所長 筑境地形素未 諳悉 莊 昧 朝命雖嚴未能遵赴者烏鳥私情不勝眷戀但可爲徐元直 不敢應若遠涉關山尤非高堂所樂時事雖迫知已雖殷 類以此不敢輕離膝下比年鄉國多處當事亦時加物色皆 則仰視老母淚承睫黯然長歎復趨而退出山之念不覺 定則日若吾霜燭之年何不敢對趙而退次日晨起又請愈 不忍為溫太眞此情亦麾下所曲諒也且柏心年今六十日 識何資籍略磨下雄略奇謨符古名將祭酒軍諮尤多國 老母今年已八十頻歲播遷備受驚悸近日起居然形衰 **况爐舒之壤舊產英豪開屬下舍已用人虛懷若是必駢**

下本也以多一卷三一一

j

恐 事 先公 誌 윸 謹 當 具 草不 託 之 班 馬 韓 歐 而 般 股 以 屬 柏 百柱堂全集 卷三十七 再答鶴人布政書 值 伐之師哉麾下連戰皆勝然宿兵於荒殘之地饟道回遠殆 假柏心為輕重也謹納館金精使奉繳方命之愆冀垂寬宥 財擇馬軍中早秋冀為 同客寄能轉關而前與勝袁二星使之軍合則可會拔皖 而不同心讀之立當解散用意與文詞仁義兼盡眞無慚 眉杖策上關軍門願參幕府有賢於柏心干百倍者至矣何 拊金陵之背不然還援勒黃亦於就餉爲宜妄論隃度幸 不足增重青珉奈何賜示檄諭最中機要飢氓捻徒同役 國自重以時珍護不宣

爲絕裾之行耳前牋所陳無 月前使并言旋謹將未能避赴之苦衷憑情肅復矣隨往 飢渴無殊矣循諷數四繼之處泣直以老母春秋過高不忍 幸也寶之忭躍書詞於柏心翹盼之切至再至三肫誠若 矣士不宿飽野惟亦地孤軍轉戰環境皆寇而能臨危獲濟 竟著奇功此由忠義奮發不啻神助非但嫖姚深入常有天 淹時而黃中盡於塵下威名正相敵耳聞此次師行艱苦極 郡甫王鞲舍又奉到六安行營賜書於悉屬功三捷進克霍 山席卷而前庭馳電埽豈止澄清江北已哉義眞秉鉞曾未 其不忍奪人親也審矣夫所恃以決策料勝者此心耳 語涉於虛假者磨下仁孝人

百柱堂全集一卷三十七 答鶴人布政第三書 人之明何幸如之若不蒙察鑒復辱後命雖使者十返柏心 者使柏心得以白首奉母全其虚名而又不至上累麾下知 塵下且舍柏心別求奇士何患無才略奇傑之流輻輳而至 履行陣未習新鈴安敢用未經嘗試之學以人之師僥倖愿 恨何者其方寸先亂也況柏心之間 改者平且自審生平未 軍合矣既合能軍聲勢益展便定計疾引師下院口 昨者兩肅復牋計塵清覽伏審軍鋒電埽已度六安前與院 亦惟有堅守本志而已敢布腹心憐而恕之咸且不朽 此心以籌軍事又分此心以念親闌雖在明智之才猶多遺 皖口

子麾下 善撫士卒甘苦 部 以身先之 軍乘勢當有建大舉東下之策者麾下徑會皖軍 日來過飲郡 而潯陽及爐境諸賊與金陵偽眾首尾橫決不攻自潰 濬 無不 |動名最 | | | | | | 散遣者士平均屬聽健入營與其隊長談戰事皆言歷 韓擒虎之功可立就也何事急避皖江受篆乎哉柏 得土 忍 **飢力戰者至今語及麾下猶** 雖鋒及在前不憐也 西郭 加 此眞名將之 與同能周知其材質高下賞罰分明每戰 外見所飼鮮男自漢川而來詢皆歷 知最深願 風哉磨下在方今羣帥中年最 運削 加愛慎以奏膚功柏心愚 精缺乏時以温言撫 相 與威激泣 直 捣 建 况楚 也嗟 慰 辄

貫星日誌石之文非馬班韓柳安能勝任柏心才學識三者 然不若姑委之幕府他有類此者望一切捐棄神明所注專 百胜堂全集 聚卷三十七 數十字皆謂與其過簡而 簡恐乖金石之體曾質之衛,新都轉及九曾農部僅寫節· 為方召將為稷契敢獻鄙言幸垂意爲愍肅公大節稟然上 在軍事則亂可速期功可早立麾下才略地望海內瞻仰 主於專精至於橫槊賦詩磨盾草檄雖才敏絕人據鞍立就 | 間不曉兵機竊聞為將之道慮事欲熟事至無悔而止所 夜籌畫者揣敵料勢行如戰戰如守有功如幸故其思慮恆 有馬又未嘗專治古文承命不敢辭謹撰葉本苦不能 遺美不如稍詳而紀實也寄求 H

等初意亦擬分鄉設櫃聽民就近完納以杜被塞亦許於 網或 核實糧額章本為做邑情形本年最為棘手漕期迫促版 寄五屬諸納其清查 編查審為第一要政毅然有國僑正封 答胡调芝撫軍書 風力蓋與減漕良法相表裏相維持者也其核定清單已 月前接寶鈞翰並手定做郡五屬滅漕清單共十紙所示清 卅可穑胥吏又倡為如此辦理必包征包解埽清全完而 在官而在册普盡言兵毁不肯呈繳縣令既毫無把握某 更與當世工文者共裁酌之草草布牋惟垂察不宜 一節均械致勸其次第分鄉散局以 洫張 叔大行清丈之

前民間新令皆欣然稱負緡錢赴櫃完納頗聞冊書多方 和此是大樓~~~~~~ 著名蠹猾者 地昔朱人酒酸不售者狗迎而並之也卽此輩也竊意如 率攜錢 清查有成另造圖冊一留在官一 某等細思做邑之漕今年只宜聽民赴縣完納民皆赴櫃則 難奶如 數使司推收過割其餘一 冊書代納之陋規不裁自去冊書無權將不革自退俟來歲 Ħ 將來惧漕咎在紳士於是羣受其恫喝無敢身任此事者 以歸蓋吏意必欲百計沮撓使候漕期以爲歸過 往時代完之例索 倘許諸生條其姓名聞於教事即 機裁革則若輩無所挾制矣惟 取抽豐小民興 留在民然後酌定冊書名 ŀ 候不 1 行嚴札 可得券則相

尴 週 勞怨所歸尚懇執 紳士某等 事議論擔當壁畫措置卓然不為蠢小所搖其言以春完或 **强禦所中傷敝邑有舉人浙克欽者據懷磊落士** 期者 櫃 之凹或三之 加 列姓名另單呈覽惟石首份須搜採凡此諸人出身任 申 **懋治儆其一二餘者自當斂迹至於推擇分鄉設局** 罰 末 給收鐵至 收櫃每旬以前五日收某鄉糧 1 逐加詢訪悉心 櫃 17 :: -有定期不完有督責民心乃定凡赴櫃辰 秋完開櫃約定期限某月日 事賜之札委假以事權俾專責任庶不 四月准即 遊選 截券歸家庶免稽滯縣 略得梗 概皆公正 後五日收某 開 消 也此次在 某月日收 强者 為

運多事據云旗點銅鉛皆會於蜀之瀘州銅鉛局始行起運 會同團總戸保舉發稽察似可振表揭領之要因執事博采 防壅遏凡此數則似皆可采又言清查之法紳士得人卽 鎺 育姓堂全集 一颗 谷三十七 出江向例每年正選四起加運二起押運官均赴瀘領運北 鼓鑄以放之昨有黔人朱鼇峰過談渠曾佐運銅鉛習知起 **邇來敝省各市鎮開坐錢荒此事於行軍最不便莫若廣** 上正運一百一十餘萬加運八十餘萬每年銅鉛合計一干 一胡潤芝中丞書 面有書吏需索分文者准花戸鳴鑼聲張即行究理以 拊逃之 ŀ 图 盯

馬救 審員 **医者亦可息其覬覦俟錢幣周行** 用之財分所鑄十之三為工費不必另轉墊發近在水次轉 解京以代 **王楚**不過牛月岩 道里亦近此舉若成以濟軍需以便民生化無用之物為 時 如可采用則當人告請 中纖 便或馬一品子母相權更易流通若軍務告故則運錢 比年軍與計已停運然積滯 Ž 銅鉛官吏舟楫省費無涯為物重滯盜賊探囊 上策濟軍之良計執事以天下為已任 類工匠想復不少若就彼處鼓鑄瀘在 積滞銅鉛不敷鼓鑄 旨 飭 四方然後罷運 在瀘者不少瀘州薪炭 下四川雲貴督 則由 . 順黔 故 似乎此舉 源源運赴 江 濱輕 撫曾商 顶 以獨

百柱堂全集一卷三十七 一等辦選清强幹練之員監督與鑄毋許濫惡蔣劣攙雜泥沙 與左季高書丁巴四月 兩粵黔中及江右蔓延無已毗 進止乃齊也干虜崇嚴無任屏營 攻擊則威望折衝無異合肥之有韋虎且令諸將有所稟承 貨皆平此亦管蕭之俯所樂聞者也皖賊又熾與我 徒損物力而無適於用監鑄之員以鑄錢善惡及多寡遲速 壤接眈眈日有窥伺之謀竊意執事此時宜出鎭境上相 通久因其自然化而裁之不假外求不煩旌算飢饵立足百 一功過賞罰如此而錢法立貨幣裕矣此皆導宣積滯窮變 連熊湘勢皆岌岌以一 显 地 同 隅 機 而

得詠翁中丞還定安輯有子西改紀楚政寇恂鎭撫河內之 決也且已上章待命矣計 馬連舫 昨始 錄稿 見示 觸謂 滌 脅此次 必宜 再出不待 再 風然其才實不止於安民保境 在詠翁惜不得替人尚未能專任軍族總師東下也滌翁 銳終日 乙終制之心豈得遂哉揣 置之周也 搏 與胡蓮舫書篇末商及出處謀之眾論且齒及柏心 無敢這一卒 戰然後可以抗威稜而遏亂略也哉做省克復 此其折衝票侮功效卓越豈必身踐冠揚披 駒揚塵境上者則勢事綱 徐 翁所以踌躇未決者不 廷議及 而已且據上 意亦必以 游滅 城之權今 移 固 堅執 圉

並補行喪服進以釋 慕義鼓舞用命東南義民裹糧跂踵以望其至終於殄滅狂 孝纖芥無憾萬代青史孰能嘗議若必敦硜硜之小節違 **沒者非滌翁莫屬也事平之後解甲還山廬於墓所檘踊** 位者比光數年前已有不受倒賞之奏天下就不諒其心者 開棄養復有奪情之舉雖屬再起只是一事終始以滅賊馬 者此賊耳馳驅三省攻戰連年偽黨結連相持未決不幸 **奪情古人未有恐天下議之此過慮也夫始之奪情也所討** 任而已金革變禮鑿凶門而任危事非夫從容平時貪戀祿 滌翁威略再起登壇運其智勇凡豪傑忠果之士聞聲 | Want 1 君父之憂退以遂臣子之私大忠純

下生活台為

再 江 跳 意 部旨之殷勤 趨 便 大相 左為本以事論之則江右尚强 逃人其 梁者 王自 重 竊 江右然其窟穴渠率皆在金陵以偽 m 相屠 拔 有愚策願陳管鑑亦請藉執事以 强跖敢以鄙意聞之執事乞便中代述幸甚又 刺繆何前後忽出兩轍也派翁在憂戚之中 無不依託假附甘為羽翼去秋以來全 訶 李丰 十十 略同 刳聽桀賊將斬夷略盡 網恐翆情失望責備轉多且與煉態 نالا 强而兼 刵 乘之隙也以勢論 其弱愚意謂不必急急於江 而江左差弱今日之計當 江夷旱蝗糧食垂罄 之 代致馬賊 號驅率攀流選 則 陵内訂城 江 右為末 、勢今 柏 滌 心未 团 本 雖 萷 间 翁

變或生他處異時兵力與財力交和深恐無以善其後故欲 今要策必出於此**執事才略明決**良平之傷如以鄙論非謬 滌翁出長江上游統水師直取建康者蓋反覆籌度妄謂 水陸東下直捣建業舟抵白下彼必瓦解旣覆其巢則江 以撫建數郡委之第合劉音諸將防遏牽制使不能犯楚南 百住堂全集。一卷三十七 **澤賊亦將震潰如尚負嵎拒我則回施卷甲徑指豫章釜底** 北之境而滌翁由江路董率水軍俟拔潯陽便與楊李二 棄柏心竊謂江石非必爭之 残魂彼安所逃死哉晋宣帝日惟明者能深度彼已豫有所 地 惟金陵形勝必不可使巨猾 月難期機會坐失兵外則 師 有

警員弁間道至江左行营會合定計為他日首尾並舉之約 **壯其功至復哪州後乃見柏心獨決之於其回谿垂翅之秋** 似亦機宜所不可少者執事以爲然否 **連日甘霖如注胸次灑然雨中忽有送尊替至者视封題乃** 與左季高兵部書 似乎聲息未甚相通故金陵賊情循屬惝恍愚謂宜專遣機 則請與滌翁圖之一決進取之機又上游將帥與江夷將 何者因而不挫非豪傑不能若機勢兩利則芒鋒甫露耳今 二月杪訝何濡滯疾讀之快甚如共軒眉拊掌時也詠翁忠 一游之勢操可以滅賊之權未得決策東下者以鎮撫與 1 - 1 - 1 - CK 帥

百柱堂全集一概卷三十七 隋之平陳也韓擒虎自采石取白下而楊素總師上游爲之 再 易 服 便 線 水 陸 諸 軍 直 指 建 康 則 訴 翁 但 駐 師 境 上 足 食 足 雖致力佝沒然磊落不羣曾客遊臨湘邑令周君渭川者其 之平吳也王衛用樓船人建業而杜預總師上游為之後繼 中表也境有土宼投以壯土一百搗賊藥姑山風雪搏戰頗 秀穎者僅事文史識時務之俊傑未之想也日來有桂林耶 轉偷偷無衛侯可寄也若滌翁肯納鄙言由江路進發俟拔 君友石名太愚者扣門過訪議論英爽貌亦偉岸詩顏俊 後繼其成功則一也今日事勢亦當如此承詢敝郡人士 兵調發轉給一主征討一主館師兩賢表裏賊不足平矣晉 . | 哭

豈但為做那光浙人某君勁躁果於自用才辨尚不能 員石首楊文定裔孫亦預其選學使者用意如此足以勸忠 有擒斬竟獲其巢而歸聞能運矛入陣頗有兵機且得士心 秩欲持以當曳落河難矣不患其誤世患其自誤耳 者從彼處物色可耳江陵相國裔孫紹先者去歲已充弟子 於知人暇時招與共談一叩其蘊渠行止多依渭川欲相見 英姿颯爽當能有成年前逾冠他日所就或難限量執事 將行營中自率一隊使立戰功隨加拔擢或亦將傾材觀其 恆欲以武略奮跡稍自表見若令召募數百人置之當今名 明潤芝撫軍書丁巳十月廿二日 明

必遽 出 | 省覽聞進計之舉 B 日柱堂全集 一卷三十七 一智勇之 教 累載根林不可謂不盤 勝 功肯在執事 分布大江 師蓋大舉用兵必多分敵勢使其首尾不能相救然 昨以神 出 事 翹跂及晉之平吳也以六道進師隋 方今節銀中威勛冠世莫如執事度 而 將得以乘 起曾公也以時勢度之賦滅亡速矣滅賊 征之令施及做邑曾偕胡龔二子肅上謝牋計 南 北上 已推戰曾公竊意曾公堅守廬墓之志 朝命若至 一起海 間 出奇 五矣規爲一 陽 拔其本根今兹斯 便冀綜師東下以慰四方之 下 至 測 州又以金 畢殄滅之計必將 之平陳也以八 是 勢難 陵為窟穴徑 朝 廷亦未 極衰 之 後 榷 道 肯 望 興 Æ

移 張 江 民 萬之兵逆 陳 聲 憨 皆子免死 師 H 圍 州 奏 勢多施控 其首 義 平 術 之 慚 用 甲伐 楚 師 ìΙ 角) 賊聞 師 願 出 闸 恶 以 部 皖 當 助官軍者皆檄介分道各 遏 取 遣還 Ž 金 江 分 彼備 將震 陵 流 陷 移 此時潯陽早下 籍 加 江 而 此亦 多 潰 檻 北 此 <u>T</u>, 力寡 騎 步 不 則 兵 外嚴 騎 鞞 知 職 所措 或 夾 鼔 則 攻 震 而屈 進 易 瓜 天旌 移豫省之 人之 能 步或 進然後 訪 師 也 過 旗 餇 省 凹 兵者 攻 遠 縱 蔽 出 散榜 楚 火殺 師 近資活 澗 H 也欠 軍 出 H [4 號 廬 颠 以 金 沿

百柱堂全集 卷三十七 遣 事亮而教之幸甚 脊於湯火吞噬中者 稽礎斧非執事投袂而起 得安枕且熟視其淫名僭號自凝伯王經五六年之人不問 成謀豈待汪儒納說其間哉但區區義憤以爲梟獍鯨鯢久 圖此舉則大幸也執事身任安危才略出鄰乘機決勝早有 机上肉耳總之東南根本在金陵不先克取沿江數行省豈 則引師直過俟克金陵凡江右羣賊均將瓦解潯陽窮孽直 石逆窥伺潜乘我後如其未下第以輕兵綴之使不至葬突 一卒一騎問罪城下者何以孤跳梁反側之魄耶歲內能 無已時也謹上掛詩數章以獻愚憬軟 廟堂之憂不能遠釋吾民之迫 軠

之良籌也又念漕弊甫釐軍儲未裕一 突之勢且將襲據院城縣死旦夕或西窺楚塞 接誦 州瓜 必使謀出萬全乃圖大舉蓋懷碩壼敬用咨 窺何途徑甚多必也蓄威設備以待之如合肥有韋虎韩 有王羆使彼岡 帥水陸並會泉渠埽穴在此一 經越軼又恐死灰復燃移瀾他境鄙見以為三 胡 步先後克復金陵殘孽亡在旦夕 釣後詳示所以未能速發之故蓋楚境三面受敵狡 潤芝撫軍書丁已十二月初入日 而惕伏不敢稍萌觊觎誠伐謀之上策制 舉竊科窮寇瓦 身兼伪安外據之 延旨又促 歎 或 日來承 削 解必有 北 都 鼠 間 饭 楊 勝 澗

百柱堂全集一卷三十七 |指 自先據皖城杜被 竄逸之路 移咨豫省大師嚴兵據境以 未審當否伏所財擇肅牋貢臆 防奔突 為後繼聲援諸軍前鋒銳氣百倍必能速滅成功管籬之見 而執事亦戒厲士馬先期親赴下游節度相機攻守 下則專防殘賊之上竄者若猶未也則藉執事威名